

支部協だより

第132号

発行所
 NTT労組退職者の会
 沖縄県支部協議会
 沖縄県浦添市城間4-35-2
 TEL.098-870-7101
 FAX.098-875-7450
 責任者
 瀬良垣 武安

宜野湾市市長選挙

「シムラ恵一郎」の出馬表明会見

10月23日(金)宜野湾市のジュピランスで宜野湾市市長選挙「シムラ恵一郎」の出馬表明会見が行われました。同会見には、翁長県知事も駆けつけて、この市長選挙では、「シムラ恵一郎」の圧勝と来年7月の参議院沖縄選挙区の「イハ洋一」の勝利を勝ち取り、沖縄県民の総意として辺野古新基地建設を阻止していきましよう」と力強く檄を飛ばしました。

野古移設に反対するか、しないか。そして「オスプレイの配備に反対するか、しないか」これが大きな争点の一つと考えています。

この問題は、ウチナーンチュのアイデンティティーはもとより、県民にとって、人間の尊厳、生きる原点、これからの沖縄の将来すべてを占う、責任が問われる大きな問題であります。私たち、宜野湾市民にとっても、県民と共に乗り越えな

ければいけない課題です。これまでの課題の政策実現を託した「建白書」の思いを共有し、実行することを明確に打ち出すことができる宜野湾市政を実現するか、しないかの重要な選挙なのです。

多くの県民は、昨年の県知事選で、オール沖縄を掲げ、普天間基地の辺野古移設に反対する翁長雄志知事を圧倒的に支持し、新たなリーダーとして選択いたしました。

ける候補者が全ての選挙区で当選しました。この二つの知事選と衆院選で、宜野湾市民も辺野古移設反対の意思表示を明確にしました。これが県民、市民の圧倒的な民意です。私はこの民意を大事にすることが、宜野湾市政にも求められていると思います。したがって、政府が強行しようとしている辺野古新基地建設には、断固反対します。

私は、翁長知事と共に県内移設に反対し、普天間基地の固定化を許さず、宜野湾市民のための市政を実現するために、市長選への出馬を決断しました。私は、新人であり、どうしても皆様のご支持と御支援が必要です。どうぞ、よろしくお願ひします。

宜野湾市長選挙予定候補者 シムラ 恵一郎

会員の安全確認と被害状況の把握、特に原発被災地の会員の避難先がつかめず苦勞しながら、三ヶ月間で二一八一名全員の無事を確認することが出来たとの報告。会員の被害状況報告では家屋の流出・全壊三〇軒、半壊一六五軒、住宅の一部損壊四七八軒となり、これらの被害に対する電通共済給付金は家財給付を含めて四億七七〇〇万円の給付になり、会員から「本当に助かった」と感謝されたようでした。

第十七回全国総会と福島原発事故被災地視察

瀬良垣 武安

今回の退職者の会の全国総会(九月十七、十八日)は、「東日本大震災」からの復興・再生に向けた支援を目的として、福島県での開催となりました。

紀、みんなと共に」のシンボルフレーズを合言葉に退職者パワーを発揮して取りくんで行くことを確認。

特に重点的取りくみとして、来年の二〇一六年七月に行なわれる参議院議員選挙で、NTT労組組織内候補者の「石橋みちひろ」参議院議員が二期目の再選に向けて比例代表として、全国的に支援と知名度の向上を最大課題として取りくんでいくことも確認されました。

NTT労組退職者の会は、退職後の生活を楽しく豊かに過ごすためにも会員との双方向コミュニケーションを大切に、「東日本大震災」からの復興・再生に向けた取りくみをはじめとする重要課題に取りくむとともに、各種会議やサークル・レク等を通じた仲間との交流、生きがいづくりの追求、また安心して老後を過ごせる社会を築き、私たちの暮らしを守る政策の実現をめざして「現・退一致」の運動を積極的に推進し、「安心信頼生きがいあふれる二十一世紀

総会の翌日には福島第一原発から三〇、四〇キロ周辺を中心としたバスの中からの被災地の視察でしたが、二〇一一年の三月十一日からすでに四年半も経過している現状で、住人の居ない多くの家屋が放置され、住人の姿がまったく見当たらない異様な状況を目のあたりにしました。このようなきびしい環境のもとでの、退職者の会福島県協の皆様の大変な取りくみの報告がありました。

会員の安全確認と被害状況の把握、特に原発被災地の会員の避難先がつかめず苦勞しながら、三ヶ月間で二一八一名全員の無事を確認することが出来たとの報告。会員の被害状況報告では家屋の流出・全壊三〇軒、半壊一六五軒、住宅の一部損壊四七八軒となり、これらの被害に対する電通共済給付金は家財給付を含めて四億七七〇〇万円の給付になり、会員から「本当に助かった」と感謝されたようでした。

現地会員からの報告の中で、特に強調されておりましたことは、通常の自然災害ならば、発生から四年半も経過していれば、とっくに復旧可能であるが、原発事故は永年、営々として築き上げてきた我町、我家を一瞬にして放射能汚染し破壊してしまいました。

原発の再稼働は絶対にやってはならないと強い決意を受け止めた被災地視察でした。

原発の再稼働は絶対にやってはならないと強い決意を受け止めた被災地視察でした。

◆シムラ恵一郎・宜野湾市長選挙 出馬表明より
 ハイサイ、グスーヨー、チューウガナピラ。志村恵一郎です。来る1月24日に投票票予定の宜野湾市長選挙への出馬を決意しました。今回の市長選挙は、オール沖縄が求める「建白書」に基づく「米軍普天間基地の辺



シムラ恵一郎と翁長知事

定期総会模様！

安里 優

「安心・信頼、生きがいあふれる21世紀、みんなと共に!!」をスローガンに、NTT労組退職者の会第17回定期総会が10月15日(木)15時から「沖縄かりゆしアーバンリゾート・なは」において盛大に行われました。

今年の総会は92名(来賓含む)の会員参加のもと開催されました。総会は3部構成で1部が総会、2部が講演会、3部が懇親会でおおそかな中にも楽しい総会となりました。

総会は渡嘉敷副会長の開会宣言のあと、与那嶺米子さんが議長に選出され議事に入りました。

会長あいさつの前に、瀬良垣会長からこの1年間で亡くなられた6名の会員のお名前が読み上げられ、参加者全員で故人を偲びご冥福を祈り黙とうをささげました。

瀬良垣会長の挨拶についてNTT労組九州総支部沖縄分会砂川分会長のあいさつ(副分会長代読)、退職者の会中央協議会石原喜久会長からのメッセージ、NTT労組組織内参議院議員「石橋みちひろ」のメッセージが紹介されました。



そのあと各種報告・提案に入り事務局から、①2014年度経過報告及び2015年度活動方針、②2014年度決算報告及び2015年度予算(案)の提案、③会計監査報告について会計監査から報告を受け、質疑討論に入りました。

活動方針の中で特徴的なことは、①辺野古への新基地建設は許さない、②宜野湾市長選挙でのオール沖縄推薦候補の圧倒的勝利、③2016年7月に行われる参議院議員選挙地方区でのオール沖縄推薦候補の圧倒的勝利、④2016年7月に行われる参議院議員選挙全国比例区での「石橋みちひろ」君の必勝です。

まで一括して行いました。会員から①2015年度予算(案)の会費収入について、会員は855名との報告があったが、予算(案)では781名で計算されている。この差について説明してほしい。との質問があり、執行部から、今年度入会した会員については、入会金は徴収するが会費についてはは次年度からの徴収になること、会員の連絡先不明者が12名いること、85歳以上の会員については、会費が免除されること、以上の理由から781名で計算していると回答した。質疑応答のあと、「2014年度経過報告」「2014年度決算報告」「会計監査報告」「2015年度活動方針」「2015年度予算(案)」を満場一致決定しました。

その後、役員選出について瀬良垣会長から提案があり

満場一致承認されました。役員は「顧問：黒島善市、会長：瀬良垣武安、副会長：垣花廣光・渡嘉敷直久・松田竹徳・長嶺律雄、事務局長：安里優、会計：澤崎勝雄、幹事：長嶺瞳・大城則江・宮城恵子・渡口政晃・玉寄初子・金城幸男、会計監査：宮城順一・照屋眞孝」以上の皆さんです。

2部はフリーランスライターの屋良朝博氏による「抑止力はゆくし(嘘)である」をテーマに講義をしていただきました。

今さらながら①海兵隊が沖縄米軍基地の7割、兵力は6割を占めていること、②海兵隊は日本本土(岐阜・静岡・山梨)から沖縄へやってきたこと、③米軍は日中の争いに巻き込まれることを懸念していること。まさに目から鱗が落ちるといって表現がピッタリではないか。

屋良氏のお話は今後の沖縄の未来を予測するのに重要な内容が満載で非常によかったです。

3部の懇親会は、幕開けから余興全般にわたり、三線クラブ、民舞サークルを中心に大いに盛り上がり、あつという間に時間が過ぎてしまいました。

2015年度活動方針にもありますように、宜野湾市長選挙でのオール沖縄推

薦候補の勝利、2016年7月に行われる参議院議員選挙地方区でのオール沖縄推薦候補の勝利、同時期に行われる参議院議員選挙全国比例区での「石橋みちひろ」君の勝利に向けて共に頑張りましょう。

***抑止——政府が安保法案と辺野古新基地建設の必要性を説明する時に繰り返し返す単語だ。それって何だろう。**



屋良 朝博氏

抑止——政府が安保法案と辺野古新基地建設の必要性を説明するとき繰り返し返す単語だ。それって何だろう。一般的に抑止は①意思②力③相手の合理的判断の三つが構成要件とされる。敵の利益侵害には徹底的に報復する意思を絶えず表明し、それを実行する軍事力を備え、そして相手がその意思と能力をちゃんと理解して自制する判断力が備わっているときに抑止力は効果を得る。「沖縄の米軍は抑止に不可欠だ」と政府は連呼する。抑止力は自身のものではなく、米軍の威を借りる。日本が米側の意思を我がものように言えるのだろうか。

例えば尖閣諸島をめぐる中国との領有権争い。米国が尖閣問題で軍を投入する意思があるのか、中国と事を構える意思があるかどうか抑止力の前提となる。これまでの米政府の態度を見ると確証は得られていない。米国民が日本のために尖閣に若い兵士を向かわせると日本は言う。いやはや信じがたい。施設提供と抑止を同列視するのは議論が倒錯している。

もう一つ、政府がよく持ち出すのが「沖縄には地理的優位性がある」という常套句だ。比較対象がなければ優劣を決められない。沖縄はどこと比較して優位なのだろうか。

沖縄駐留の米軍部隊で最大兵力は海兵隊(18000人)だ。全体の約6割を占め、使用する基地面積は7割を超える。部隊を運ぶ米海軍艦船は長崎県佐世保にあり、輸送力は20000人でしかない。対処任務は限定的だ。海兵隊は佐世保の船でアジア太平洋地域の同盟国を絶えず巡回し、さまざまな軍隊と共同演習を行っている。軍事外交を展開しながら、アジア地域の地域の集団安全保障体制を構築している。冷戦後軍事だけでなく、人道支援活動、災害救援活動の共同対処に重点を置いている。

今年2月、タイで行われた合同訓練には中国人民解放軍の兵士も参加した事実、日本ではほとんど知られていない。

米軍再編で沖縄海兵隊は5年後に半減する。米軍の抑止力を強調する人々がなぜ兵力半減に異論を挟まないのか理解できない。所詮、抑止はユクシ(嘘)なのだ。

「会員の訃報について」
謹んでご報告し、故人の冥福をお祈りします。
知化 懋 満86歳
(2015・2・19)
国頭村在